

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	総務文教常任委員会	会議場所 第3委員会室	
		担当職員 藤村	
日 時	平成24年9月25日(火)	開 議	午前 10 時 03分
		閉 議	午前 10 時 34分
出席委員	堤 齊藤 並河 中村 田中 西村 日高 木曾 石野		
執行機関出席者	竹岡教育長、辻田教育部長、福井教育総務課長、高屋まちづくり推進部長、中西建築住宅課長		
傍聴	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否	市民 0名	報道関係者 0名
			議員 0名

## 会 議 の 概 要

### 1 堤委員長 あいさつ 開議

#### < 堤委員長 >

亀中の工事現場を見て、順調に工事が進んでいることはうれしく思うが、契約変更の議決前にすでに工事が進められていた。今回の亀中耐震化工事にかかる説明をされたい。

### 2 理事者説明

#### < 教育長 >

亀中耐震化・大規模改修工事の請負契約の変更について、改めて説明させていただく。工事を進める中で当初予定していなかった不備が数多く見つかった。その都度に議会への報告や契約変更を議案提案する等するべきであったが、工事を中断すると工事が大幅に遅れることもあり、工事を続行する中で必要な対応を進めてきた。今回追加工事も進み、変更額がほぼ確定した時点で契約変更の議案提出をさせていただいた。改修工事についてはありうることはあるが、適宜の説明が出来ていなかったことは申し訳なく思う。契約変更が出てきた時点で説明すべきであったと反省している。今後は十分に意思疎通し、連携をとって同じことを繰り返すことのないよう努力していきたい。寛大な判断でご承認願う。

#### < まちづくり推進部長 >

十分な設計で臨んだが、解体すると耐震の根幹に関わるのところまで影響がある躯体の不備があった。すべて掌握した時点で提案したが、その間に工事を止めると躯体がどうなるかわからないという危機感があった。議会への報告が滞ったことにお詫びするが、現場を安全な形で進めたく、躯体の耐震化を最優先で進めさせていただいた。もっと教委と連携をとって、議会にも報告したうえで議案提出をさせていただくべきであった。反省している。現場の工事が工期内に終わるよう何とかお力添え賜りたい。

#### < 堤委員長 >

委員会の採決は終わっているが、今の説明を聞いて何か意見があれば。

#### < 西村委員 >

丁寧な説明と謝罪があったが、議会軽視というより二元代表制を否定し、コンプライアンスにも反するものであり遺憾に思う。発注する教委と事業を進めている建築住宅課があるが契約検査課が関わっていないことが大きな原因だと思う。検査する契約

検査課の目線で少なくとも中間検査すべき。指導監督する立場である。すべての担当課が立場の違いを生かしてうまく連携して工事を進めていかなければいけない。そこがポイントであると思うので、今までのやり方を見直し、今後を生かしてもらえよう願います。

<木曾委員>

今後再発防止のために何をしなければいけないか。過去には教委に工事の専門職員もおり連携をとってきたが今はいない。耐震化工事は27年度まで予定されており、今が大詰め。体制づくりをしてもらうことにより防げるのかと思う。また、事象を察知したら月例の常任委員会でも報告いただいて理解を求められたい。工事監査は入ったのか。

<まちづくり推進部長>

今年度は当該工事の監査は受けていない。項目に入っていない。

<田中委員>

今言われた通りだが、先ほど教育長から「変更契約すれば工期が延びる」旨の発言があったが、契約変更の必要は認められていたが「工期がないのでやっつけてしまおう」という思いが働いて安易な変更になったのではないか。資料も提出されたが1,300箇所も超えていまさら確認のしようがない。これまでも常任委員会にきっちり報告すべきだった。

<日高委員>

最初の見積もりが授業を継続しながらであったので細かいところまで見られず変更になったということだが、個人の家ではありえない。実施設計の段階できっちりとし、再発防止に努めてほしいと思うがどうか。

<まちづくり推進部長>

天井、床、壁すべてはがさないと躯体が確認できなかった。点検すべき場所は確認したがすべては予想できなかった。個人の家とは違う。改修の現場に入ると予想以上のことが起こりうる。思いの外躯体の痛みが激しく、変更せざるを得なかった。何とかご理解願いたい。

<石野委員>

常任委員会も毎月月例会を開いており、報告の機会もあったと思う。今後は十分注意されたい。

<並河委員>

順序を間違えないよう段階を踏んで進めていくことが大事と思う。議会に報告することと工事を止めることは別問題。議案提出するならその都度の報告があればよかった。

<中村委員>

一定やむを得ないことは承知している。その都度の改修が必要であり、額が確定しないのもわかるが、事前の一言の説明が大事である。縦割り行政の弊害がどうしてもあるように思うので、連携して願います。

<齊藤副委員長>

昨日の説明で橋梁の検査では見て触って診断している。設計時になぜそこまでチェックしなかったのかが不思議。市も被害者かとも思う。

<まちづくり推進部長>

橋梁はすべて露出しており、コンクリートそのものが仕上げなのでほとんど目視で確認できる。学校はすべて化粧仕上げしてあるのでめくらないとわからない。なおかつモルタルもはがさないとわからない。仮に休み時間に床をはがしてモルタルをはが

して検査してもまたもとに戻すのは物理的に無理である。橋梁とは違う。

< 堤委員長 >

各委員から意見が出たが、同じ思いである。市と議会は信頼関係で成り立っている  
ので、何が何でも反対ではなく道理が通れば賛成する。これを機に議決機関である議  
会の立場も十分理解され、よろしく願います

< 教育長 >

今、るるご指摘をいただいた。意思疎通ができていなかったのは間違いない。今後  
は連携を密にしていきたい。体制や組織機構のことは今後慎重な審議があるが、今後  
も耐震化工事は続くので、教委と建築住宅課が十分連携し、お互いに理解し工事にあ  
たっていくことが大事と考える。初心に帰って反省し、残りの耐震化・大規模工事を  
進めていきたい。

( 理事者退室 )

10 : 34

< 堤委員長 >

総務文教常任委員会はこれで閉じる。

10 : 34 閉議